ENEOSスーパー耐久シリーズ2026
Empowered by BRIDGESTONE

第5戦 スーパー耐久 in オートポリス

ＥＮＥＯＳ スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE
第5戦 スーパー耐久 in オートポリス

開催地：オートポリス（大分県）／4.674km

7月25日（予選）
天候：晴れ　コースコンディション：ドライ　観客数：4,500人

7月26日（決勝）
天候：晴れ　コースコンディション：ドライ　観客数：6,000人

apr
Racing Constructor

確実に見えていた表彰台、ボルトひとつに涙を飲むも、執念の4位完走果たす

2026年もaprは、全7大会で争われるスーパー耐久シリーズに、FIA-GT3で競われるST-Xクラスに臨む。「DENSO LEXUS RC F GT3」をドライブするのは、永井宏明選手と蒲生尚弥選手、小河諒選手、そして嵯峨宏紀選手だ。スポーツランドSUGOが舞台となった第４戦では、永井選手の代役を務めた鵜飼隆太選手が、蒲生選手がQ1を2番手でクリアしたことからQ1Aに出走。見事トップタイムを叩き出し、ポールポジションを獲得。決勝でもドライバー4人が安定の走りで4時間をしっかり戦い抜いて、第１戦・モビリティリゾートでのレース１以来となる、今季2勝目をマークした。ランキングはまだ3位。それでもトップとの差は21.5ポイントにまで縮まり、もう完全にテールランプは見えている。奇しくも第５戦の舞台は、昨年優勝を飾っているオートポリス。お膳立ては完全に整えられた。

公式予選　７月25日（土）14:00～

この週末、何より最大のライバルとなるのは、厳しい暑さだと予想されていた。特にオートポリスが位置する大分県日田市は、今年になって何度も猛暑日があり、誰もが覚悟の上で臨んでいたはず。いざ乗り込んでみると、山中のサーキットということで我慢できないほどではなく。
そんな状況の中、aprは金曜日から走行を開始し、午前の専有走行では蒲生選手が1分52秒721を記して3番手に。また午後の専有走行では永井選手を中心として、セットアップが進められていった結果、温度が上がったにもかかわらず、1分53秒830をマークして2番手となっていた。
ここまで積み上げてきたサクセスウェイトは65kg。最も重い車両に対し、25kgの差があるとはいえ、きつい上り勾配のセクター3に大きな影響を及ぼしていた。そして、もうひとつ明らかになったことがある。最高速が他の車両に比べ、数km/h劣っているのだ。これはこのところの活躍があって、BoPによりリストリクター径が絞られてしまったため。
土曜日にはウォームアップ走行、ピットウォークが行われた後、いよいよ予選が開始。直前のレースでアクシデントが発生したため、当初の予定より10分遅れとなっていた。気温は30度を超え、路面温度も50度に迫っていたが、Aドライバーの永井選手は久々の予選とあって、1周のウォームアップを行ってからアタックを開始。条件が厳しいはずが、トップと1秒遅れぬ１分53秒051をマークして3番手に。セッション終了を待たずにピットに戻ってくる。
続いてBドライバー予選に挑んだ蒲生選手は、計測1周目からアタックし、まずは1分51秒185を記録。この時点では4番手とあって、再度アタックをかけるも、1分51秒251とタイムダウン。その間にタイムで上回ったライバルもいたため、6番手に退いたものの、永井選手とのタイム合算では4番手に。「DENSO LEXUS RC F GT3」は2列目グリッドから決勝に臨むこととなった。
その後のCドライバー予選は小河選手が、Dドライバー予選は嵯峨選手が走行。いずれもユーズドタイヤで決勝のセット確認を行い、小河選手は1分54秒300で3番手に、そして嵯峨選手は1分55秒910で4番手につけていた。

永井宏明選手

リストリクター絞られちゃっているので、特に高地のオートポリスでは何ともならない遅さで、予選は厳しかったですね。久々の決勝ですが、大丈夫だと思っています。チームみんなでミスなくつなげられればいいな、と思っています。

蒲生尚弥選手

今回はできること、ちゃんとやって、車は良くなっていますし、決勝も5時間で長いですし、予選は厳しいかもしれないけど、決勝は淡々と行ければいいかな、と思っています。僅差ですし、行けると思っています。

小河諒選手

ちょっとBドライバー予選後に、トラブルが起きちゃったんですけど、チームが迅速な対応をしてくれて、なんとかCドライバー予選には遅れずにコースインしてくれたので、そのあたりはメカニックさんの技術の高さを感じられました。走りに関しては、当然オートポリスではトラフィックがすごいので、ポテンシャルの100%引き出せなかったところはありますけど、決勝に向けて、いろんなことを確認することができたので、また明日は4人で力を合わせて、いい順位で戻って来られるように準備したいと思っています。

嵯峨宏紀選手

思いの外、今回リストリクターが絞られていてパワーもない中で、コーナーを頑張るんですけど、コースの特性上、タイヤのデグラレーション、けっこう厳しい戦いになるんじゃないかって感じています、予選を終わった段階では。ある意味、RC F自体、タイヤには優しくないので、そこの差が後半でちゃうかもしれないので。そうならないように準備していきたいと思っています。

金曽裕人監督

リストリクターをBoPで絞られている影響で、最高速も伸びていないんですけど、なんとかジタバタして、少しでも高い得点取れるように頑張るつもりです。今のところ、セットはそこまで外していないけど、限界はありますよね。明日の決勝までに、何を辻つま合わせていくか、正しいのか、頑張ってチェックします。どっちにせよ荒れたレースにはなるでしょうから、確実に走ったチームが優勝となるレースにはなるでしょう。

決勝レース 7月26日（日）11:00～

日曜日の午前にピットウォークが行われた後、15分のウォームアップが実施され、嵯峨選手と小河選手が走行。最終チェックも問題なく行うことができた。今回は5時間レースで、ピットストップの義務づけは３回。またAドライバーには75分以上の走行が必要とされる。決勝レースのスタート進行が行われている間の気温は29度、路面温度は45度と、予選より低めながら日差しはより強くなった印象も。厳しい戦いは、もはや避けられそうもない。
今回のスタート担当は嵯峨選手。オープニングラップのうちにひとつポジションを上げ、3番手でレースを開始する。周回を重ねるごと、高くなっていったのが後方からの圧。バックマーカーに行く手を阻まれたことで、11周目に4番手に退くも、15周目に2番手を走行していた車両が、トラブルでピットに入ったことで、順位を戻す格好となった。
4番手以下の車両は大きく引き離していたこともあり、スタートから1時間を経過する直前の30周目に小河選手と交代。この間に4番手とはなったが、その後ライバルがピットに入るたび順位は上がって2番手となったから、アンダーカットに成功した格好に。しかもタイヤをしっかり守って走っていた小河選手は、自身のスティント終盤にトップとの差を詰めていた。
そしてスタートから2時間26分経過した、73周目に小河選手から永井選手に。コンスタントな走りで、やはり後続を寄せつけずにいた。しかし、107周目に永井選手はピットに戻ってくる。予定よりやや早く、そのままガレージイン。足回りの異常を永井選手が訴えていたからだ。
幸い致命傷ではなく、メカニックの迅速な対応で、ドライバーも蒲生選手に代えてマシンをコースに戻すも、その間にトップとの差は10周に。優勝戦戦からは脱落してしまったが、完走さえ果たせば……。
するとどうだろう、ランキング2位の車両がリタイアを喫し、そればかりかトップを走行していた車両も足回りにトラブルを抱え、ガレージに押し込まれたではないか！　ただ、復帰までの時間は「DENSO LEXUS RC F GT3」より短く、ポジションは4番手のまま。蒲生選手は何事もなかったように安定のタイムを刻み続けていただけに、そのあたりは他力本願ではあったが、惜しまれるところではあった。
4位でチェッカーを受けたことで15ポイントを獲得し、ランキングでは2位に浮上。トップとの差は広がってしまったが、まだ2戦残されていることを思えば、まだまだ逆転は不可能ではない。第４戦からのインターバルは、わずか３週間だったが、岡山国際サーキットが舞台となる第６戦は、たっぷり３か月後の10月24～25日の開催となる。諦めの悪さは、aprが最も誇るところでもある！

永井宏明選手

守って走ろうと思ったんですが、壊れちゃったので、残念です。2位以上が見えていましたので悔しいですね。次の岡山にもう一回チャレンジして、表彰台に上がれるように頑張りたいと思います。

蒲生尚弥選手

縁石を使わないと曲がらないし、それによる疲労で壊れたかもしれませんが、オートポリスでは仕方ないです。直してもらってからの車は全然問題なかったです。完走しないとポイントもつかないので、完走できて良かったです。また頑張ります。

小河諒選手

いつもスタート行かせてもらっているんですが、今回は嵯峨選手が行ってくれて。ちょっとペースが正直、厳しくもありましたが、ああいったところ、本当はドライバーがもっと強いレースしないと、引っ張っていけないと思いました。最終的にはトラブルでしたけど、今は原因はわかりませんが、僕たちの車の使い方かもしれないし、物の問題かもしれないですけど、流れが良かっただけに残念です。ただ、ライバル勢もトラブル起きる中、しっかり完走させてくれたのは、チームのみんなのおかげだと思っています。残りの岡山と富士、連勝して有終の美を飾れるように、しっかり準備をしたいと思います。

嵯峨宏紀選手

ちょっと、1台に行かれちゃったのが、ST-5クラスとの絡みで、最終コーナーを並走しなければならない状態になって、アクセル抜かなくてはならなくて。ちょっとタイミングが悪かったですね。ただ、ペースもベンツの方が速かったんですけど、抜いていった後にちょっと離れてからは、あまり差がつかなかったので、タイヤはもう向こうもきついのかな、と思いながら、次にとにかく自分はバトンつなぐことだけ考えて、淡々と走っていました。ただ、2位は見えていただけに、ここは落としたくなかった、というのが正直なところです。悔しいです。

金曽裕人監督

残念でした。作戦も良かったし、ドライバーもいい感じだったんですが、足回りのボルトが折れてしまいました。右前の足のボルトが。縁石も使うコースなので、『交換サイクルを、早めておけば良かった』という……。メカニックが頑張って直してくれたおかげで、4位とはなりましたが、優勝チームよりも上でチェッカー受けられた可能性が非常に高かったので、残念でした。今回の差で、チャンピオンからは遠のいたかもしれませんが、残り全勝し大逆転チャンピオンを目指したいと思っています。ご期待ください。